

「使徒信条」ラテン語原文

シュンボルム	アポストリクム
Symbolum	Apostolicum* ¹
信仰告白	使徒の
主中単	形・主中単
	<i>Apostolicus</i>

クレードー	イン	デウム	パトレム	オムニポテンテム
Credo	in	Deum	Patrem	omnipotentem,
私は信頼を置いている	～の中へ	神	父なる	全能の
現能直1単	前	対男単	対男単	形・対男単
		<i>deus</i>	<i>pater</i>	<i>omnipotens</i>

クレアトーレム	カエリー	エト	テルラエ
Creatorem	caeli	et	terrae,
創造者	天の	～と	地の
対男単	属中単	接続詞	属女単
<i>creator</i>	<i>caelum</i>		<i>terra</i>

エト	イン	イエースーム	クリストウム
et	in	Iesum	Christum,
また	～の中へ	イエス	キリスト
接続詞	前	対男単	対男単
		<i>Iesus</i>	<i>Christus</i>

フィーリウム	エイユス	ウーニクム	ドミヌム	ノストルム
Filium	Eius	unicum* ² ,	Dominum	nostrum,
子	彼の	独特の	主	私たちの
対男単	属男単	形・対男単	対男単	属格
<i>filius</i>	<i>is</i>	<i>unicus</i>	<i>dominus</i>	<i>ego</i>

クウィー	コンセプトゥス	エスト	デー	スピーリトゥー	サンクトー
qui	conceptus	est*3	de*4	Spiritu	Sancto,
彼は	妊娠された	現能直3単	~によって	霊	聖なる
関・主男単	完受分・主男単		前	奪男単	形・奪男単
	concipio	sum		spiritus	sanctus

ナトゥス	エクス	マリーアー	ウィルギネ
natus	ex	Maria	Virgine,
生まれた	~から	マリア	処女
完受分・主男単	前	奪女単	奪女単
nascor		virgo	

パッスス	サブ	ポンティオー	ピーラートー	クルキフィークスス
passus	sub	Pontio	Pilato,	crucifixus,
受けた	~の下で	ポンティオ	ピラト	十字架につけられた
完受分・主男単	前	奪男単	奪男単	完受分・主男単
patior		Pontius	Pilatus	crucifigo

モルトゥウス	エト	セプルトゥス	デースケンディト	アド	インフェロース
mortuus,	et	sepultus,	descendit	ad	inferos,
死んだ	そして	埋葬された	下った	~へ	よみ
完受分・主男単	接続詞	完受分・主男単	完能直3単	前	対男複
morior		sepelio	descendo		inferi

テルティア	ディエー	レスルレクシト	アー	モルトゥイース
tertia	die	resurrexit	a	mortuis,
第三の	日に	再び起き上がった	~から	死者たち
奪女単	奪女単	完能直3単	前	奪男複
tertius	dies	resurgo		mortuus

アスケンディト	アド	カエロース
ascendit	ad	caelos*5,
昇った	~へ	天
完能直3単	前	対中複
ascendo		caelum

セDET	AD	DEXステラム	DEイ	PATリス	OMニポテンティス
sedet	ad	dexteram	Dei	Patris	omnipotentis,
すわっている	～に	右	神の	父なる	全能の
現能直3単	前	対女単	属男単	属男単	形・属男単
sedeo		dextera	deus	pater	omnipotens

インDE	ウENTウールス	EST	ユーDEイカーレ
inde	venturus	est*6	iudicare
そこから	来ようとしている		さばくために
副	未能分・主男単	現能直3単	現能不
	venio	sum	judico

UIウオース	ET	MOルトウオース
vivos	et	mortuos.
生者たちを	～と	死者たちを
対男複	接続詞	対男複
vivus		mortuus

クレード	IN	SPIリトゥム	SANクトゥム
Credo	in	Spiritum	Sanctum,
私は信頼を置いている	～の中へ	霊	聖なる
現能直1単	前	対男単	形・対男単
		spiritus	sanctus

SANクタム	ECKレーシウム	カトリカム	SANクトールム	CONムニオーネム
sanctam*7	Ecclesiam	catholicam*8,	sanctorum	communionem*9,
聖別された	教会を	普遍的な	聖徒たちの	交わりを
形・対女単	対女単	形・対女単	属男複	対女単
sanctus	ecclesia	catholicus	sanctus	communio

レMISSイオーネム	PECCAトルム	カルニス	レスルレクティオーネム	UIータム	AEテルナム
remissionem	peccatorum,	carnis	resurrectionem,	vitam	aeternam.
赦しを	罪の	肉体の	復活を	いのちを	永遠の
対女単	属中複	属女単	対女単	対女単	形・対女単
remissio	peccatum	caro	resurrectio	vita	aeternus

アーメン

Amen.

アーメン

間投詞

ラテン語原文の私訳：

私は、天と地の創造者、全能の父なる神を信頼しています。

また、その独特の子、私たちの主、イエス・キリストを信頼しています。

この方は、聖霊によって宿り、処女マリアから生まれ、ポンティオ・ピラトの下で（苦しみを）受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみへ下り、三日目に死者たちからよみがえり、天へ昇り、全能の父なる神の右にすわっておられ、生きている者たちと死んだ者たちとをさばくために、そこから来ようとしておられます。

私は、聖霊を信頼しています。

私は、聖別された普遍的教会を、聖徒たちの交わりを、罪の赦しを、肉体のよみがえりを、永遠のいのちを信じています。

アーメン。

注

- *1 ApostolicumはApostolorum (apostolusの属男複, 「使徒たちの」の意味) と書かれる場合もある。
- *2 unicus= 「独特な, 比類なき, 匹敵するものがない」。
- *3 conceptus estのように, 「完了受動分詞+sumの現在形」で, 完了時称の受動相が表現される。これ以下の完了受動分詞も同様に, estが省略されていると見た。
- *4 このdeは原因を表す。(『新ラテン文法』 § 398参照。)
- *5 caelosはcaelaの別形。(『古典ラテン語文典』 42頁1(b)参照。)
- *6 「未来分詞+sumの現在形」で, 「~しようとしている」など, 可能, 予定, 意図を表す。(『新ラテン文法』 § 446参照。)
- *7 sanctus= 「神聖な, 聖なる」。このこと, 「使徒たちの」でのsanctusは, 「神のご用のために区別された」という意味で, ヘブル語の שָׂדֵק (コデシュ) やギリシア語の ἅγιος (ハギオス) と同じ意味を表している。
また, sanctam以降の述語動詞として, Credo inではなく, Credoが省略されていると考えた。そう考えることで, Credo in+人格の対格を「~を信頼する」と訳し, Credo+事物の対格を「~を信じる」と訳し分けた。
- *8 「普遍的教会」とは, キリストをかしらとする, 「キリストのからだ」(エペ1:23等) のこと。普遍的教会は, 使徒2章のペンテコステの日に誕生し, 携挙のときに天へ上げられる。
- *9 communio= 「共有, 参加, 分担」。この語はギリシア語の κοινωνία (コイノーニア) と同じ意味と考えられ, 次の2つの意味を含んでいると思われる。
①共通の相手に施与する交わり, ②共通の源から受ける交わり。

参考文献

- ・中山恒夫著 『古典ラテン語文典』 白水社, 2007年
- ・松平千秋/国原吉之助共著 『新ラテン文法』 第10版, 東洋出版, 2015年
- ・水谷智洋編 『羅和辞典<改訂版>』 研究社, 2017年

2022年3月4日発行

著者 加藤裕

<インターニアの見方>

- ・1行目は、ラテン語の発音のカタカナ表記です。アクセントの位置は少し大きい太字で示しました。
- ・2行目は、ラテン語の原文です。一般的なテキストを採用しました。
- ・3行目は、ラテン語の逐語訳です。
- ・4行目は、文法解析です。例えば「主中単」は「主格・中性・単数」という意味です。形容詞には「形・主中単」のように、「形」を付けました。関係代名詞には「関・主男単」のように、「関」を付けました。前置詞は「前」と書きました。副詞は「副」と書きました。動詞の場合、例えば「現能直1単」は「現在・能動・直説法・1人称・単数」という意味です。また「完能直3単」は「完了・能動・直説法・3人称・単数」という意味です。分詞は、完了分詞なら「完受分・主男単」のように書き、未来分詞なら「未能分・主男単」のように書きました。不定法は「現能不」のように書きました。
- ・5行目は、辞典の見出し語形です。辞典で調べるときの便宜を考えて、動詞は青色で、その他の品詞は茶色で示しました。